



岩瀬曳山車祭に対する岩瀬の人々の意識変化

Changes in the Attitudes of Iwase Residents Toward the Iwase Hikiyama Festival

文化研究／論文

地域キュレーションコース

飯野 采美

Ayami Iino

◎研究目的

新型コロナウイルスの影響によって2年間途絶えた岩瀬曳山車祭であったが、コロナ禍3年目の2022年度は2年ぶりに祭りが行われることとなった。岩瀬曳山車祭という地域行事を通じて地域間交流があった岩瀬の人々にとって、2年ぶりの開催となった岩瀬曳山車祭に対し、何らかの意識変化があったと推測する。本研究では、コロナ禍において行われた岩瀬曳山車祭の実態を調査し、岩瀬曳山車祭に参加した新町の人々が岩瀬曳山車祭に対し、どのような意識を持っているのかを明らかにすることを目的とする。

◎調査結果

コロナ禍に行われる岩瀬曳山車祭への参加に対し、町民同士の意見の対立が見受けられたが、反対派の町民が理解を示し、祭り参加へ肯定するといった意識改革が起きていた。そして、今年行われた岩瀬曳山車祭を通じて、祭りに参加した新町の人々は、若い世代に引き継ぐことや今年参加できなかった町内に良い働きかけができたこと、地域の人や外部の人々の喜びを実感したことにより、満足感を得られていたことが明らかとなった。加えて調査では、今年度の新町の参加者は“繋がる”という受動的な意識から、“次世代に繋げる”、“来年へと繋げる”という自発的に“繋げていく”能動的な考え方へと意識が変化していた。

◎結論

今年度の岩瀬曳山車祭を通じて、新町の人々は各々の役割を通し、人と人が世代間を超えて繋がる受動的な意識から、来年や次世代へと“繋げる”もの、人間関係を“繋ぎ続ける”ものという能動的な意識へと変化しており、新町の自発的な活動は岩瀬曳山車祭の周期性を取り戻す地域のレジリエンス力として、次に繋げる祭りとなっていた。